

総合生殖医療センター

1. 概要

当院で体外受精等の生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年であり、2017年は22年目を迎えた。タイムラプスインキュベーターの世界初全例導入（2007年）、地域の患者のみを治療対象とすること、不妊症は夫婦の病気という定義通りに夫婦両方の初診を徹底すること、安全な単胚移植を徹底すること、出産・育児の開始まで一貫して管理すること等を2017年も引き続き、実践してきた。「先進的で唯一無二の生殖医療を東三河に」を合言葉に、健全な家族形成を地域での医療で完結するという生殖周産期医療の理想を旗印として、関連する医師やコメディカルスタッフが集結して、生まれてくる子どものことを第一に考えた基本軸のしっかりした医療を実践すべく、難しいケースにも的確に対応できるよう日々研鑽を重ねている。

（センター長 安藤 寿夫）